

事業計画書

事業名	杉原千畝夫妻の顕彰活動
実施場所	港口公園、プラサヴェルデ（予定）
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 令和4年4月1日～令和5年3月31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい（事業の紹介などで使用します）。

1. 第2回碑前祭「命のビザ・希望の集い」 令和4年10月30日（日）
令和2年11月1日に港口公園に建立された顕彰碑を中心に第2回碑前祭を行う。若い世代層にも参加してもらえるように、奉納演奏はジャズバンドとし、キッチンカーの参加などフェスティバルの要素を取り入れて、より幅広い世代が参加する楽しい催しにしたい。
2. 第3回「命のビザ講演会」 講師 山田純大 令和4年11月20日（日）
第1回「外交官の見た命のビザ」第2回「命のビザを繋いだ人々」に続く講演会。
敦賀港を経て神戸に到着したユダヤ難民の滞在ビザを延長し、横浜港からアメリカなどに送った、昨年度は「命のビザ」の発給を受けたユダヤ難民の日本入国に尽力した日本人についての講演だった。その後日本からアメリカ、オーストラリアなどに出国するに当たり滞日ビザの延長などに尽力し貢献したのが小辻節三だった。山田純大さんはアメリカ留学中に「杉原サバイバー」に出会い小辻節三に関心を持ったことから研究を重ねて『命を繋いだ男 小辻節三とユダヤ難民』（NHK出版、2013）を出版して現在も増刷を重ねている。今年度は昨年度の続編として山田純大さんに講演してもらおう。新たに高校生との対談も取り入れたい。

今年度は、ステップアップとして、子育て世代、高校生など若い世代にも参加してもらえるように、楽しい行事も取り入れてリニューアルして実施したい。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか（事業を行うきっかけ（地域の問題点や課題、社会背景など）や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか）を記載して下さい。

2年間、まちづくりファンドやマスコミの支援を受けて顕彰活動を続けて来たが、まだまだ市民には浸透していないというのが現状であり、継続して発信することが必要だと認識している。「命のビザ」は中高生の教科書にも掲載されているが、沼津に縁のあることを知って身近に感じるように、とくに次代を担う世代、中高生にも参加を働きかけたい。

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
令和4年4月	実行委員会 月1回を基準にして開催、 顕彰活動についての情報の共有。意見交換を行う 案内チラシの作成

7月	7月イスラエル、リトアニア、ポーランド各駐日大使館の外交官はじめ来賓に碑前祭への招待状を発送、スピーチの依頼をする。
9月	碑前祭、講演会についての具体的準備作業を行う 案内チラシの配布、案内葉書の発送 会場設営、役割分担その他
10月30日(日)	第2回碑前祭「命のビザ・希望の集い」開催
11月20日(日)	第3回「命のビザ講演会」開催

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。

- 1, 杉原千畝の妻、幸子夫人が沼津生まれであることを知ってもらい誇りにしてもらおう。
- 2, より広範な市内外の人々に杉原夫妻の偉業を知り、人道の精神を学んでもらう。
- 3, 小中高生に関心をもってもらい、総合学習、自主研究などの課題としてもらう。
- 4, 外交官の参加により沼津の国際化、国際交流の促進の一助となる。
- 5, 沼津の観光スポットの一つとなり、観光振興に寄与する。

成果指標	※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。	指標の 検証方法	※左記指標の検証方法を記載して下さい。
	<ol style="list-style-type: none"> 1, 港湾との周遊性。 港湾やビューオを訪れる人々が観光マップを手に港口公園まで足をのばし顕彰碑を見るようになる。 2, 観光客の訪問者数 顕彰碑に興味を持ち港口公園を散策する人が増える。 3, 杉原夫妻への市民の関心度。 市内外の人々が顕彰碑の説明板を読んで認識を新たに して、沼津の誇りとする 		<p>観光マップ、その他の媒体で顕彰碑が取り上げられ、どのように紹介されているかを検証する</p> <p>顕彰碑の見学者の状況</p> <p>碑前祭、講演会、イベントの参加者数、とくに中高生の参加者数</p>

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

公益性 ・ 必要性	<ol style="list-style-type: none"> 1, 来年は沼津市制100周年を迎え、港湾地区を中心に「Sea 級グルメ全国大会」の開催が予定されている。港口公園も周遊コースとなり顕彰碑を訪れる人が増え観光スポットとなる 2, 杉原幸子夫人が沼津生まれであることが市民の誇りになる。 3, マスコミ報道により沼津市の知名度が国内外で上がる。 4, 外交官の出席により沼津の国際性が向上し、市内の中高生の世界史や英語習得の励みとなる。
地域性	<ol style="list-style-type: none"> 1, 顕彰碑の建立地として沼津市が提案してくれた松の緑豊か港口公園は、港湾の近く、ビューオに隣接している、観光スポットにもなれば幸いである。そして、沼津の知名度の向上に寄与することを願っている。 2, この2年間、新型コロナウイルスの流行により各種イベントが中止になり社会活

	<p>動が自粛され、心身ともに委縮している。市民に明るい機会と話題を提供し元気になってもらいたいと思う。</p> <p>3. とくに今年度は、令和5年に迎える「沼津市制100周年」の節目に、沼津の木である松の木が永遠の命を象徴していることにちなみ、令和5年3月に、自主企画として、沼津市、人道の精神、邦楽の永続性への祈りを込めて、沼津市在住の邦楽演奏家たちと協力して「松の翠邦楽演奏会」も計画している。</p>
先導性	<p>1. アフターコロナの国内外からの観光客の来訪にそなえて、日本語説明板に加えて新たに英文説明板を設置した。リトアニア、イスラエル両大使館との協働で行われた。幸いなことに、通訳を務めた暁秀高校の生徒さんたちが沼津千本ライオンズクラブから地域貢献として表彰され励みになった。今年度は、暁秀高校のみならず、その他の市内高校にも参加を呼びかけて高校生の参加を拡げていきたい。</p> <p>2. 昨年度に引き続き、大学のゼミ、海外とのリモート会議、新聞報、SNSで沼津の顕彰碑の紹介をするよう工夫して国内外の人々、大学生に拡がるようにする。</p>
発展性 ・ 継続性	<p>1. 昨年はリトアニア、イスラエルに加えて、ポーランド駐日大使館の交官も出席して下さった。また、ニューヨーク在住の日本人を対象にした週刊紙「ニューヨーク生活」にも紹介された。顕彰活動を通して沼津と諸外国との交流の輪をさらに拡げようと思う。</p> <p>2. 杉原千畝ゆかりの福井県敦賀市、岐阜県百津町、愛知県名古屋市と連携した「千畝ルート」の創設の構想もある。</p>
実現性 ・ 妥当性	<p>昨年の講演会で入場料500円をいただき活動資金の一助とした。また、市内10カ所の企業や団体から案内チラシ、プログラムの広告料として各1万円、計10万円をいただいた。まちづくりファンドの支援を受けると同時に、活動継続のための自主財源の確保に努めたいと思う。</p>
活動に対する熱意	<p>近年、ミャンマー、アフガニスタンをはじめ世界各地で難民が多発している。人道の精神が問われ杉原夫妻の偉業が再評価されている。世界に尊敬される日本人であるためには、先人の偉業を顕彰し学んでいくことが増々大切になっている。コロナ禍の影響もあり、社会活動、人間関係がリモート化されつつある現状にある。その中で人間性を養うこと、人道の精神、利他の精神、慈悲心、日本の情緒を後世に継承していくことが必要だ。富士山の麓、沼津から国内はもちろん世界に人道の精神を発信し続けたいと思っている。</p>

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

昨年度のテーマは「勝縁を結ぶ」（顕彰活動の輪の拡大）とした。今年度は「正念相続」（人道の精神の継続）。次代を担う世代に参加を促し継承者を育成し、顕彰活動の継続を通して、人間性の涵養を目指していきたい。また、人道の精神の発信を続けることによって、国内外の人々との輪を拡げていきたい。沼津の活性化は沼津市民の活性化にある。来年度の沼津市制100周年を元気な市民と共に祝いできれば幸いに思う。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。

令和2年11月、港口公園での杉原夫妻の顕彰碑の除幕式には、来賓として、沼津市長、リトアニア、イスラエル両駐日大使館の外交官夫妻、千畝氏の孫杉原まどかさんなどを迎え、市民200名余が参加した。講演会にも200名の参加者があり「命のビザ」への認識を深めた。令和3年11月、第1回碑前祭ではリトアニア、イスラエル両国駐日大使館に加えてポーランド駐日大使館の外交官が出席して国際色が増した。インバンド観光客への対応のために、新たにリトアニア、イスラエルとの共同プロジェクトとして顕彰碑の脇に英文説明板が設置することが出来た。プログラムに献茶式、献花式、箏曲「松の羽衣」の奉納演奏と和の文化でまとめて好評だった。

ただし当日、海風がとても強く寒かったので、今年の開催日を10月末としたしだいである。広報活動について、行事開催のお知らせを、案内チラシの配布、新聞広告、「広報ぬまづ」への掲載など努力したが、まだ十分に生き届いておらず、さらに工夫が必要だと思っている。